



# ぶらりらいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 1 2 3

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。  
(書名の後の( )の数字は請求記号です。)

問) 沖縄では学生が戦闘に参加したって本当ですか。

答) 「沖縄」「学生」をキーワードとして **ことば** で検索してみます。

**全資料** → **ことば** → **沖縄 学生** ⇒ 260件

※ヒット件数が多いので、ここでは検索結果に多く出てきた「学徒隊」という言葉で再度検索してみましょう。

**全資料** → **ことば** → **沖縄 学徒隊** ⇒ 58件

『愛と鮮血の記録 殉国沖縄学徒隊』(210.75/Ki44)開架一般

『沖縄戦における学徒従軍記』(210.75/Sh12)閉架一般

『ざわざわの沖縄戦 サトウキビ畑の慟哭』(210.75/Ta82)閉架一般

『ひめゆりの塔学徒隊長の手記』(916/N82)開架一般

※沖縄では男女を問わず多くの学生たちが戦いに巻き込まれ、命を落としました。  
5階の映像・音響室でも、「16歳の少年学徒兵 ～長田勝男さんの体験談～」という  
当時の証言をご覧ください。この機会に、活字と語りで当時を想い起こしませんか。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。  
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。  
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

## — 主婦の友 編集日記 —



『主婦の友』昭和20年9・10月合併号に記載されていた編集日記をご紹介します。  
敗戦後、新たな出発に向けての編集局の意気込みが十分に感じられます。

### 九月三日(月・晴)

日本の新しい国家目的について石川社長は全員へ訓話した。

『敗戦は耐えがたい悲しみであるが、これによって新しい国家、恐らくは世界があこがれる軍備によらぬ国家、人類に貢献するところ大きい文化国家を建設することができると思う。そのよい条件にある国家こそ日本である。昭和二十年九月二日の降伏調印の日を、われらは二十年三十年後において感謝の日とせねばならぬ。それをなし得ぬなら日本民族の真の屈辱であり滅びである。』

### 九月五日(水・晴)

戦争で一ヶ月もおくれた雑誌の発行日を取り戻すために九十月合併号を編集した。樺太を失って出版の紙はいよいよ不自由になるが、『戦後の生活再建』のために私達は頁を倍にし表紙を色刷りにして建設への発足とした。

### 九月十八日(火・晴)

連合軍総司令部から帝国政府への要求によって社は新館を提供し、編集局は旧館へ移った。検分の士官は、台所から便所にいたるまで、これほど明るくて清潔な建物は東京にないと喜んでいる。使ってもらう以上は、できるだけ居心地よくしてあげたい。不自由の中に働くことが負けた国の再建の姿である。われわれの気持は日本のせつない気持につながるものがなければならぬ。今日の多くの読者は壕舎に住み衣食とぼしき人々である。その読者と同じ不自由の中に辛抱する働きでなければ読者の力にはならぬ。恰もきょうは社の創業二十九周年記念日だ。われわれは第二の創業に勇んで出発する。

『主婦の友 第29巻第9号』(051/Sh99/29-9)より

\* 旧漢字、旧仮名遣いは改めました。

—図書室から—

新緑が青空に映えるすがすがしい季節になりました。どこかへお出かけしたくなりますね。

※図書室フロアでのペットボトルの持ち込みが目立ちます。図書室での利用マナーをお守りください。

ぶらりらいぶらりい ~図書室にはこんな本があります~ NO. 123

2010年5月20日 発行

編集・発行 昭和館 図書室

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1